

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	教育環境の整備を通じて、ライチャウ省、コントウム省の少数民族の子どもたちが質の高い幼稚園・小学校教育を受けられるようになる
(2) 事業の必要性(背景)	<p>ベトナム経済は近年著しく成長しているが、その陰で国民の格差が拡大している。当事業は、少数民族の割合と貧困率ももっとも高く、疎外されている地域を対象とする。北部ライチャウ省シンホー郡の貧困率は29.9%、中部コントウム省コンブロン郡は31.5%と全国平均6.0%に比べ非常に高い。ともに少数民族の比率も高く、シンホー郡は91.7%、コンブロン郡は84.9%に上る。(参考資料1. 対象地域基礎データ)</p> <p>少数民族の子どもも多くは、父母が民族の言葉しか話せず、家では公用語であるベトナム語を学ぶ機会がない。子どもたちは幼稚園で初めてベトナム語を学ぶことになる。幼稚園でのベトナム語教育は、少数民族のベトナム語習得および小学校での教育効果を大きく左右するが、現在幼稚園で行われているベトナム語教育の質は低い。そのため、子どもたちは基礎的なベトナム語も習得できないまま卒園している。小学校では、教師のほとんどはキン族(ベトナムの主要民族)で子どもたちとコミュニケーションが取れず、授業はベトナム語のみで行われるため、授業についていけない子どもが続出する。</p> <p>これらの状況から、少数民族の子どもも多くは、小学校を卒業してもベトナム語での読み書きができず、学力が低い。このことは、子どもたちの中高等教育への進学を阻み、将来の職業の選択肢を狭めて収入向上を妨げている。また、健康や災害への対応能力などにも影響し、子どもたちの一生を左右する深刻な問題となっている。</p> <p>対象地の幼稚園・小学校の教育現場では、特に次のような問題が顕著である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習環境が劣悪(特に分校の教室や衛生・給水設備、図書不足) (参考資料2. 基幹校と分校の違い) ・教育の質が低い(少数民族の子どもたちを対象にしたベトナム語教育、教師主体の授業) ・「教師間の学びあい」が授業の改善に十分につなげていない ・小学生の留年や退学が多い(初等教育の対象年齢である6~11歳の子どものうち10%、387人が小学校に通っていない) ・幼稚園と小学校の連携不足 ・親の理解・協力不足 <p>少数民族の子どもの教育改善は、ベトナム政府の教育開発戦略計画(2011年~2020年)の重点分野のひとつであり、当事業はこの戦略に合致している。また、外務省の対ベトナム国別開発協力方針でも、依然として地方の少数民族を中心に貧困層が存在していることが指摘されており、社会・生活面の向上と貧困削減、格差是正を図る支援が重視されている。当事業は、この方針と方向性を共有するとともに、「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標4、ターゲット4.1、4.2の達成に寄与す</p>

	<p>るものである。</p>
<p>(3) 事業内容</p>	<p>前述の状況を改善するため、当事業は、対象地域のすべての幼稚園・小学校の教師や親の能力強化・啓発およびインフラ整備を通して、少数民族の子どもたちの幼稚園から小学校への円滑な移行を促し、学習環境の改善を目指す。</p> <p>当事業は、第1期には幼稚園・小学校の教師の能力強化、親や地域住民を巻き込んだ学校を支援する地域ネットワークづくりに取り組む。第2期および第3期は、これらの活動をさらに深化させるとともに、「教師間の学びあい」の質の向上に向けたツールを作成、教育訓練省/教育訓練局に提出する。また、子どもにやさしいインフラ環境の整備は毎年実施する。第1期に予定している活動は、以下のとおり。</p> <p>1. 幼稚園・小学校の教師の能力強化【対象:教師約400人】 (参考資料3. 教師トレーニングリスト)</p> <p>各校校長が選任する教師および各省・郡の教育訓練局職員ら約30名からなるコアチームを幼稚園と小学校それぞれで形成し、メンバーを指導者として育成する。コアチームメンバーは専門家から以下1.2～1.6のトレーニングを受けた後、トレーナーとなって学校レベルの実地研修を行う。また、日常的に授業観察を行い、授業内容や子どもの学びを継続して確認するとともに教師への技術サポートを行う。</p> <p>1.1 活動計画ワークショップ（対象：幼稚園・小学校） 対象校の校長や教師、各省・郡の教育訓練局職員、提携団体であるプラン・インターナショナル・ベトナム職員の当事業への参加を促進し、より良い計画をつくることを目的に行う。幼稚園・小学校のコアチームを対象に、各事業期の開始時に行う。</p> <p>1.2 教師間の学びあいトレーニング（対象：小学校） 「教師間の学びあい」とは、参加者が公開授業を観察し、子どもたちの態度や表情をビデオで記録。その後、その映像に映る児童が学ぶ様子を解説しながら、授業内容を児童の理解度に合わせて変更していく教師同士で行う勉強会である。小学校教師が授業観察力や学びあいのスキルを向上させ、自分たち自身で授業の質を継続して改善していける状況を作り上げることを目的に行う。トレーニングは、日本人教育専門家を派遣して、小学校のコアチームを対象に各事業期に2回ずつ行う。映像に基づく学びあいを促進するため、第1期にはビデオカメラを全基幹小学校10校に支給し、活用方法を指導する。トレーニングでは、教師間の学びあいをすでに導入している小学校を訪問し、先行事例から学ぶ機会とする。また、ベトナム人教育専門家を対象地域に派遣し、学校レベルでの実地研修を各事業期に2回ずつ行う。</p> <p>1.3 教師間の学びあい活動地間研修（対象：小学校） 教師間の学びあいの導入において、自分たちの学校にも取り入れ</p>

たいという強い意志を形成するためには、成功事例を実際に見て学ぶことが重要な鍵となる。そのため、第1期には、過去の事業で教師間の学びあいをすでに導入している地域にコアチームを派遣し、先行して取り組む小学校の教師とともに学びあいを実践する。ライチャウ省のコアチームはハザン省へ、コントウム省のコアチームはクアンガイ省へ派遣する。

1.4 児童参加型授業トレーニング（対象：小学校）

対象地域で行われている授業では、教師が一方向的に話し、子どもたちは受動的にそれを聞くだけ、というケースが一般的である。その結果、子どもは授業の内容を聞き流し、身につかない。少数民族の子どもの理解を助け、学習効率を上げるため、児童参加型授業を促進する。小学校のコアチームを対象に、第1期に1回、第2期に2回行う。トレーニングでは、少数民族の子どもに特に必要であるベトナム語の習得に役立つ補助教材を紹介し、授業での使い方を指導する。トレーニングを受けたメンバーは、後日各校にて地元で入手可能な素材を使った補助教材を自分たちで作成し、授業で活用する。

1.5 ベトナム語教育トレーニング（対象：幼稚園、小学校）

第2言語としてのベトナム語教育を改善することを目的として行う。対象は幼稚園・小学校のコアチーム。第1期に1回、第2期に2回行う。第1回は幼稚園・小学校合同で行い、第2回以降は別々に行う。

1.6 読書推進トレーニング（対象：小学校）

当事業で小学校に支給する児童用図書が適切に管理され、有効に活用されることを目指す。小学校のコアチームと児童の代表を対象に行う。コアチームを対象とするトレーニングは各郡で第1期のみ1回ずつ、児童を対象とするトレーニングは各郡で各事業期に1回ずつ行う。トレーニング後、各校で子どもが中心となり読書推進活動を展開する。

2. 学校を支援する地域ネットワークづくり【対象：約300人】

2.1 地域教育推進ワークショップ（対象：幼稚園、小学校）

幼稚園・小学校の連携を促進し、学校を支援する地域活動を促進するため、幼稚園・小学校教師、保護者、住民リーダー、教育訓練局職員ら約30名からなる教育推進委員会を各基幹校（10校）に形成する。各基幹校で、各事業期に1回ずつ教育推進委員会を対象に、子どもの教育環境の向上に向けた行動計画づくりのワークショップを行う。ワークショップ後、教育推進委員会は定期的に会合を行い、行動計画を実行に移すように促す。

3. 子どもにやさしい教育環境の整備【対象：子ども約5,500人】

	<p>3. 1 教室建設および教室備品の支給（対象：幼稚園、小学校） 各事業期に7教室、計21の教室建設および備品支給を支援する。第1期は、ライチャウ省シンホー郡ナムカン幼稚園の2教室、同郡スオイスートン小学校の3教室、コントウム省コンプロン郡ダクウイバイ幼稚園・小学校の2教室（幼稚園・小学校1教室ずつ）を建設する。いずれの対象校も現在木造で雨風を十分に防げない上、虫食いなどの劣化が進んでいる。スオイスートン小学校の1教室のみコンクリート製だが、土砂崩れの被害が出ており、子どもたちにとって危険な状態となっている。 （参考資料4. 教室建設対象校の状況、5. 対象地域の写真）</p> <p>3. 2 衛生・給水設備の設置（対象：幼稚園、小学校） 前述のすべての建設対象校において、男女別トイレと給水設備を設置し、教師・子どもに使い方や維持管理を指導する。（参考資料4. 教室建設対象校の状況）</p> <p>3. 3 図書および書棚の支給（対象：幼稚園、小学校） 子どもたちが図書利用を通してベトナム語力を向上させ、知識を豊かにできるよう、3期にわたってすべての基幹幼稚園（10園）・小学校（10校）に児童用図書を支給する。支給図書は、少数民族の歴史や民話を伝える本を含めるなど、民族の文化に配慮する。 なお、第1期には、対象地域の分校を含むすべての小学1・2年生各教室（計150教室）に、図書を置く書棚も支給する。図書の管理方法や活用方法は、1.5や1.6のトレーニング内で指導する。</p>
(4) 持続発展性	<p>当事業は、終了後も効果が継続して維持されるよう、次の2点に留意して形成を行った。</p> <p>1. 現地行政と住民の参加による現地オーナーシップの向上 地域の人民委員会と住民は、教室および衛生・給水設備の建設において建設管理委員会を立ち上げ、労働力の提供や進捗管理など大きな役割を果たす。設備の引き渡し時には、人民委員会と学校の維持管理責任を明記した引き渡し証にて署名を取り交わす。よって、安全で快適な学校設備が維持される。</p> <p>また、図書は各学校が維持管理責任を担うため、管理・活用方法に関する教師トレーニングを実施する。トレーニング後の管理状況や使用状況は、教育訓練局職員が継続してモニタリングする。よって、適切な図書管理が可能となる。</p> <p>2. 現地教育行政や教師、地域住民の能力強化 当事業では、教師代表や教育訓練局職員からなるコアチームを立ち上げ、指導者として育成する。コアチームは、地域の全教師へのトレーニングを実施し、習得したスキルや知識を広めていく。また、</p>

	<p>教師間の学びあいを通して、教育の質を継続して向上させる。</p> <p>地域住民は事業を通じて継続的に地域の教育活動に参加することで、教育への意識喚起がなされ、将来にわたり教育活動へ参加することが期待される。</p> <p>また、当事業で制作する「教師間の学びあい」のガイドラインと模範授業の映像を集めたビデオを中央および地域の教育訓練局職員など、教育行政関係者に紹介する。それにより、当事業が推奨する日本で開発された「教師間の学びあい」の手法や教師が互いに学びあう文化が、ベトナムの少数民族が多い他の地域へも広がり、教育の質向上に貢献することが期待される。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>直接裨益者数：6,047人（対象9コミュニティの幼稚園・小学校に通う子ども、幼稚園・小学校教師、教育訓練局職員、教育推進委員会に参加する保護者を含む地域住民）</p> <p>間接裨益者数：26,760人（対象9コミュニティの全人口）</p> <p>1) 幼稚園・小学校の教師の能力強化</p> <p>教師トレーニングへの参加を通して教師の能力が向上し、より少数民族の子どもに適した参加型の授業が行われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教師間の学びあい公開授業の実施回数： 全基幹小学校で公開授業が実施され（第1期：7回、3年間：21回）、授業観察や教師間の学びあいを通して、継続して授業の質が改善される。 ● 教師間の学びあいの質の向上： コアチームメンバー（第1期：70%、3年間：100%）が、授業観察の方法を改善し、子どもの学びを分析できるようになる。 基幹小学校（第1期：10校中9校、3年間：全10校）で、教師が授業内容や子どもの学びについて積極的に意見交換をするようになる。 ● 子どもが授業に参加する機会を増やした教師の割合： ● 小学校教師（第1期：全268人のうち80%、3年間：100%）が、グループ学習やペア学習など授業での子どもの参加機会を増やす。ベトナム語授業の内容を改善した教師の割合： 幼稚園・小学校教師（第1期：全407人のうち80%、3年間：100%）が、ベトナム語授業を少数民族の子どもに適した内容に改善する。 幼稚園教師（第1期：全139人のうち80%、3年間：100%）が、ベトナム語授業の中で、週に3冊以上の児童用図書の読み聞かせを行う。 ● 読書推進活動を実施した学校数： 小学校（第1期：全基幹校10校、3年間：分校を含む20校）で子どもを中心とする読書推進活動が実施される。

	<p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トレーニング報告書、参加者リスト ・ 活動のモニタリング、授業観察 ・ 教師・教育訓練局職員インタビュー、アンケート ・ 子どもの聞き取り調査 <p>2) 「教師間の学びあい」の質の向上および教育行政への働きかけ 「教師間の学びあい」の質の向上のためのツールが完成し、他地域でも活用される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「教師間の学びあい」の質の向上のためのツール： 質の高い、教師間の学びあいの実践的ガイドラインとビデオが完成する。(第2-3期) 成果ワークショップにおいて、教育行政関係者(教育訓練省職員：3人、各地域の教育訓練局職員：16人)が、上記ツールを見て内容を理解する。 <p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動のモニタリング ・ 教師・教育訓練局職員インタビュー、アンケート <p>3) 学校を支援する地域ネットワークづくり 教育推進委員会が各地で教育推進のための活動を展開し、幼稚園・小学校の連携強化、教育に対する親の理解・協力の向上につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育推進活動を行った委員会メンバー数： 教師や保護者からなる教育推進委員会(第1期：300人、3年間：のべ900人)が、子どもの教育環境の向上に向けた活動を各地で展開する。 <p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動のモニタリング ・ 教師インタビュー、アンケート ・ 保護者の聞き取り調査 <p>4) 子どもにやさしい教育環境の整備 教室・衛生施設の整備や図書支給を通して、幼稚園・小学校の学習環境が改善され、子どもたちの学習効率が向上する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安全な教室で授業を受ける子どもの数： 第1期対象3校で現在0人→ 110人(3年間：250人) ● 学校で適切な衛生設備を使う子どもの数： 第1期対象3校で現在0人→ 135人(3年間：300人) ● 学校図書を活用する子どもの割合： 小学校児童(第1期：全3,394人のうち70%、3年間：100%)が、週に1冊以上の児童用図書を読む。 <p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動のモニタリング ・ 教師インタビュー
--	--

	<p>・子どもの聞き取り調査</p> <p>◆事業終了後に見込まれる成果とそこに向けた取り組み</p> <p>3年間の事業終了後には、対象のすべての幼稚園・小学校において、少数民族の子どもにとって効果的なベトナム語教育が行われている状況を目指す。また、すべての小学校において、グループ学習やペア学習などの児童参加型授業が増え、日本の知見を活かした質の高い「教師間の学びあい」が継続して行われる。これらの活動が継続されるよう、当事業の活動は、すべて各省・郡の教育訓練局とともに実施する。また、提携団体であるプラン・インターナショナル・ベトナムは、当事業の終了後も教育訓練局と連携し、各校の状況をモニタリングする。</p> <p>さらに、これらの取り組みを他の少数民族地域に普及させるべく、「教師間の学びあい」の実践ガイドラインやビデオを作成し、教育訓練省に活用を働きかける。プラン・インターナショナル・ベトナムが活動する他の少数民族地域では、各省・郡の教育訓練局や各校にも活用を直接働きかける。また、事業終了後も地域住民を主体とする教育推進活動が継続されるよう、住民参加を促しつつ、対象地域の自治体や学校に働きかけを行う。</p>
--	--